

保育職を希望する学生へ就職支援

—ピアサポートの試みを通して—

川上 輝昭・吉田 文

Employment Support to the Student Who Wishes for a Childcare Job Pass

Teruaki KAWAKAMI, Aya YOSHIDA

1 本稿の課題

本稿の課題は、保育士養成大学における就職支援の現状と課題について考察を試みることである。近年、保育所への入所希望者が増加し、保育士不足が大きな社会問題として取り上げられている。その一方で、保育士資格を取得しても就職に結びつかないという事態も生じている。このことは、保育の現場においては質の高い保育士が求められていることを意味している。言うまでもなく保育所は保護者から子どもの命を預かるとともに、健全に育てることが最大の使命であり、一人ひとりの子どもに寄り添う援助はもとより、保育士としての人柄と健全育成のための専門性が求められるのは当然といえる。子どもたちだけでなく、保護者に対する子育て支援についても同様である。

保育士の質的向上は保育現場からの要請だけではなく、平成20年3月に厚生労働省より告知された「保育所保育指針」においても次のように明示されている。職員の資質向上について保育所は、「質の高い保育を展開するため、絶えず、一人一人の職員についての資質向上及び職員全体の専門性の向上を図るよう努めなければならない」。職員の留意事項としては、「子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育を行うためには、職員一人一人の倫理観、人間性並びに保育所職員としての職務及び責任の理解と自覚が基盤となること」、そして、「一人一人が保育実践や研修を通じて保育の専門性を高めること、職員と子ども及び職員と保護者との信頼関係を形成すること」も取り上げられている。このように保育士の質的向上を図るため、平成22年7月、厚生労働省から都道府県知事・指定都市市長・中核市市長に対して「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の通知が出されており、各養成施設はその内容に沿って保育士養成に取り組むことになっている。その内容は、各教科目の教授内容について、目標と内容が具体的に示されており、必要な教科目をすべて修得した者に対して保育士資格が授与されることになっている。

保育士資格取得者として相応しい専門性を身に付けているか否かが改めて問われるのが保育士採用試験である。この採用試験は、公立園にあっては各市町村ごと実施され、私立園にあっては園ごとに実施されるのが通例である。保育士養成校には、この試験に耐えうる人材の育成支援が求められている。

この小論においては、通常就職支援対策に留まらず、保育者としての質的向上を意図して取り組んだピアサポート (peer support) の実践についても取り上げてみたい。

2 求められる保育者像

(1) 保育をめぐる近年の動向

保育をめぐる近年の動向としてまず注目しておきたいことは、平成24年8月に成立した子ども・子育て関連3法(子ども・子育て支援法、認定こども園法の一部を改正する法律、関係法律の整備等に関する法律の改正)が成立したことである。この制度の主な内容は、①質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な内容、②保育の量的拡大・確保、教育・保育の質的改善、③地域の子ども・子育て支援の充実、の3点が強調されている。子ども・子育て支援法では、幼保連携型(0～5歳)、幼稚園型(3～5歳)、保育所型(0～5歳)として制度化されることになっている。この新しい制度においても求められているのは保育士の質的向上である。

(2) 公立園で求められる人材

公立園の保育者になるためには、各市町村が実施する保育士対用試験に合格しなければならない。市町村によって試験の実施内容や方法は異なっているものの、1次試験では教養試験・専門試験、2次試験では作文試験、口述試験、適性試験、実技試験が実施されている。特に近年では、学力よりもむしろ人物重視の傾向が顕著になってきている。これもやはり保育士としての質が問われているといえる。例えば、職員募集案内に次のような記載が見られる。「①市民の立場で考え、柔軟で創造的な政策を立案する職員、②問題意識を持って、組織や仕事の問題を発見し、解決する職員、③変化に対応して、新たな課題に果敢に挑戦する職員」(平成25年度小牧市職員募集案内)。「市役所の仕事といえば腕に黒い布、事務の仕事は淡々とこなす・・・と思っていませんか?しかし、そうではありません!市民のために何をすべきかを考え、実行していくことが市役所の仕事です」(平成26年度豊橋市職員募集案内)。「丁寧に対応することで市民に理解してもらうことは、とても大切な仕事です。市民の目線に立って迅速かつ柔軟に対応するよう心がけています。とても研修が充実していて学べる場がたくさんあります。いろいろな知識が求められる仕事なので、研修で学ぶことにより質の高いサービスの提供ができます」(平成26年度名古屋市職員募集案内)。「指導力だけでなく、子どもはもちろん、保護者や地域住民など多くの人と積極的に接することができる、協調性や社会性、豊かなコミュニケーション能力を持った先生を求めています」(平成26年度横浜市教員募集案内)。このように仕事に対する意欲や熱意が求められ、自ら研鑽を積んで職員としての資質を高める努力が求められている。

(3) 私立園で求められる人材

私立園にあっては、公務員試験とは異なり教養や専門知識が問われるものの保育技術と人物評価が合否基準の中心とされているようである。私立保育園就職懇談会においても複数の園長や人事担当者から、「採用に当たっては優しさや意欲・情熱等の人柄を最優先にしている」、「何よりも心身ともに健康であることを重視している」、「良好な人間関係を保つことができる性格か否かという点を重視している」といった意見が寄せられている。中には1週間程度の実習期間を設けて、子どもとの関わり方や保育内容から合否評価する園も見られる。また、当該園での実習経験がある者については、実習時の評価も加味されることがある。

園側から養成校への要望としては、コミュニケーション能力や子ども理解力の不足を指摘されることが多い。また、理由の如何を問わず、早期に離職することを危惧している園も少なくない。

(4) 保育士養成校における人材育成

保育士としての質や人間性が問われる中で養成校としても社会的な要請に応えなければならぬ。保育士養成に際しては、厚生労働省より実習期間、実習施設をはじめ指定科目についても具体的な内容が示されている。その内容に即して授業が展開されており、全国の養成施設においてほぼ同じ内容が教授されている筈である。その上で保育士としての質をどのように向上させるかが課題である。しかし、現実には個々の学生の能力や意欲に大きな差があり、保育所保育指針に定められている主旨をすべての学生に理解させるためには、授業にあたって指導担当者の創意と工夫が必要である。

3 就職支援の実際

(1) 願書対策

保育士の採用試験は、まず願書の取り寄せから始まる。願書の記入事項は市町村ごとに異なっているため記入上の注意事項を確認したうえで作成することになる。願書は住所、氏名、生年月日、学歴の他に志望動機や自己PRの記載はほぼ共通している。その他に例えば、「今までの学生・社会生活の中で一番努力したこと、興味を持って取り組んだことについて、その内容を理由とともに具体的に記入してください」、「性格と長所及び普段気をつけていることを記入してください」、「市役所に入ってから取り組んでみたい分野・業務等について、その理由とともに具体的に記入してください」、「最近関心を持った事柄（社会生活、時事問題等）について、あなたの考えを記入してください」、「自己啓発で行っていることや日常生活の中で心掛けていることがあれば記入してください」。また他の例として、「当市を志望した理由」、「保育士を職業に選んだ理由」、「保育士経験（実習を含む）の中で、最も印象に残っていること」、「学生時代の専攻（卒論・ゼミ）」、「クラブ活動・ボランティア活動など」、「自覚している得意分野、不得意分野」、「趣味と特技」、「今までに最も打ち込んだこと」、「最近関心のあるニュース」等の記載が求められている。いずれも字数は150～200字程度であるが、300～400字程度の記述が求められていることもある。このように記載項目が指示されている場合が多い。その一方で白紙に「本市を志望した理由」を文字や絵で示すことが求められている例もある。この場合は豊かな感性と独創的な発想が求められており、受験先の当面の課題や中・長期構想に対しても正確な情報を得ておくことが必要となる。

この願書は、1次試験の採点対象とされていることもあり、個人面接時の有力な評価対象でもある。したがって提出に当たっては慎重のうえにも慎重な記述が求められる。ところが項目に沿って内容を的確に書ききれないのが実情であり、文章構成そのものや語句の選択には相当な時間を要する。そのすべてが個人指導であり、長い時間と労力を必要とする。的確な文章が書けないだけでなく、誤字や脱字が多いのも最近の学生の特徴である。その原因はワープロで文字を書くことが多く、手書きの経験が不足しているためと思われる。また、各種の文献や新聞等に目を通す時間が不足していることも文章作成能力の低下を招いている一因と思われる。事後の体験で、「願書の作成は1～2時間もあれば十分だと勝手に思っていたけど、いざ書き始めてみると内容がちぐはぐで何回も先生から指摘を受けた。結局、1週間以上も費やした。先輩から時間がかかるから余裕を持って・・・というアドバイスが身にしみました」という反省からも文章力の不足をうかがうことができる。

(2) 作文対策

作文課題は1次試験で出題されることもあるが、多くは2次試験で行われる。課題は市町村によって異なっているが基本的には市町村職員として、あるいは保育士としての熱意や意欲が問われている。もちろん国語力も問われることになる。先の願書と同じようにすべて手書きであり、相当な準備を要する。制限時間や字数は市町村によって異なっているが、60分・1000字程度が一般的である。具体的な課題としては公務員としての意識や自覚を問う内容が多い。例えば「地球温暖化防止のために私ができること」、「子育てと仕事の両立について」、「子どもに信頼される保育士とは」、「本市の職員としてやりたいこと」、「地方公務員としての心構え」のような課題が出題されている。例外として「新しい自動車専用道路の開通を本市のまちづくりによろしく生かすか、具体例をあげて述べよ」、「電力の発電と送電の分離について」、「IPS細胞について」のように時の社会的問題に対する関心度や知識が問われることもある。

いずれにしても題目に沿った文章構成が前提であり、地方公務員としての自覚や改革意識の具体的な記述が必要とされている。

特別に設けた就職講座の中で一般的な説明はしているが、基本的には個人指導が中心である。本人の思いや熱意を尊重しながら、全体の奉仕者（地方公務員法第30条）としての自覚を具体的に表現するためには慎重な推考が必要である。途中で挫折感からか、意欲を失いかける者もある。このため文字通り叱咤激励しながらの支援である。しかし、書き直すたびに文章は磨かれて読みやすい内容となり、本人も努力の後を実感できるようになる。対策としては、日ごろから社会的な出来事に対して関心を持つことや文章を書く習慣を促している。新聞記事をそのまま書き写す指導もしているが、この学習は文章構成能力や表現能力を高めるために有効であるだけでなく、時事問題に関心を深める点においても有効である。

「実際にテーマを選んで書いてみたけど、文章力が全くないことを思い知らされました。何とかかなという甘い考えは許されることが分かりました。いろいろなテーマで何回も何回も実際に書いてみることに、上達の秘訣はこれしかないと思いました。書くことが苦手だけに苦労したけど、自分でやらなければ誰も助けてくれないのです。当たり前のことですが厳しさを実感させられました。今は頑張れ、後輩たち！とエールを送りたいです。」この手記からも普段の努力が大切であるというメッセージを受け取ることができる。

(3) 保育技術対策

保育技術で問われることは、実際に子どもと関わる中で保育者としての資質を問う、試験官を子どもに見立てて保育者としての資質を問う、のいずれかである。これとは別にピアノを中心とする楽器演奏の力量を問うというケースが一般的である。保育室はもとより園庭や遊戯室等で子どもとの関わりでは、何に注意し、何を意識して関われば良いのかが理解できない学生も少なくない。このため子どもと接するにあたっては、明るさ、元気さ、そしてきめ細かい注意力や観察力が必要であることを繰り返して指導している。実践的な理解を深めるためには、言葉だけでなく実際の場面を想定して動きを交えたり図示したりして、実際に身体を動かすことを取り入れている。実習では何度も同じような場面を経験している筈であるが納得のいく行動ができるようになるまでには相当な練習が必要である。

ピアノ伴奏をはじめとする楽器演奏や弾き歌いは練習量によって克服できることが多い。試験直前での練習では時間不足であり、日ごろからレッスンの積み重ねが重要であることを伝えるとともに、必要に応じて音楽担当教員の協力を仰いでいる。

(4) 面接対策

①個人

個人面接は合否を左右する重要な試験であり、ことのほか慎重が必要である。そのためには本番を想定した練習を繰り返して行わなければ身に付かないことが多い。面接対策としては例年、面接の基本を説明するだけでなく、実際の言葉や動作も含めて基本的事項の習得を図っている。面接の基本では、各市町村はどのような人材を求めているか、当該市町村の活性化と発展のために、保育士としてどのような貢献ができるか、とりわけ保育と子育て支援を担う者としての熱意や意欲を自分の言葉で誠実に伝えることを中心に練習を重ねている。また、社会人としての基本的能力や保育の専門性に対する問いに対して、自らの言葉で具体的に分かりやすく伝える学びも進めている。

面接練習の進め方は、数人で1つのグループを構成し、一人の面接について他の学生が気づいたことを指摘し合うことでお互いのレベルアップを図っている。後述するピアサポートの実践である。この過程では全員が面接ノートを作成し、問いと答えの模範的な内容を記録に留めるよう指導している。当初はぎこちなく不自然さも多く見られるが、回数を重ねるたびに落ち着きや積極性が見られるようになる。学生同士が共通な時間を作って自主的に練習に取り組む様子も珍しくない。練習回数は一様ではないが、20～30回程度が平均であり、中には50回を超える者もある。「面接は50回以上も練習したので、本番ではあまり緊張することなく、落ち着いて臨むことができた。練習あるのみですね、このことはぜひ後輩たちにも伝えておきたいです」という経験談がすべてを物語っている。

②集団面接

選考過程で集団面接が取り入れられている市町村は多い。内容や方法は一様ではないが、3～5人程度の面接官に対して数名の受験生が臨み、質問に対して自らの考えを簡潔に述べるという内容が一般的である。問われる内容は様々であるが、例えば「保育士として大切な心構えは何か」、「いわゆる手の掛かる子、気になる子に対してどのように対応するか」、「子育て支援の基本は何か」、等のことは多くの市町村で毎年のように問われている。

質問の主旨に沿って回答しているか否かが大きなポイントであるが、緊張感もあって核心からずれることもしばしばである。とにかく場に相応しい態度、言葉遣い、発言の内容に整合性がなければならぬ。基本練習を反復した後で、学生が面接官と受験生の役割を交代で演じながら相互に練習を重ねる光景がよく見受けられる。ここでも面接ノートが有効に活用されている。「試験当日、他の受験者がすごく積極的で声も大きくて圧倒される雰囲気でしたが、先生から教えていただいたように、私らしさを大切に臨み、準備してきたことを冷静に述べることができました。問いに対する答えを瞬時に用意することは個人面接も同じですが、やはり事前の練習が大切です。暑い中で何回も練習したことが報われて本当に嬉しいです」。合格者からこのようなこのような感想が寄せられることは多い。

③集団討論

集団討論は、集団面接と類似している点も見られるが、面接官は討論すべきテーマと時間のみの指示に留まることが多い。この試験の進め方に戸惑う学生も多く、事前に本番を想定した練習を十分にしたいうで臨まなければならない。討論に先立って進行係や記録係を決めておくこと、討論の柱を焦点化するのも受験生自身であることから、冷静な判断と積極的な発言が同

時に求められる。人物評価や保育士としての資質を問う方法としては最適な試験ともいえる。学生たちは過去に経験したことがないような試験内容であるだけに本質を理解するまでには長い時間を要する。問われる内容は様々であるが、「児童虐待の起こる原因と市としてできる対策」、「子育て支援」、「子どもを取り巻く社会問題を挙げ、市としてどのような対策が考えられるか」等のように、現実が生じている問題についてその解決策を具体的な意見を添えて提案するといった課題が多い。つまり日ごろから時事問題について正確な情報を収集しておくこと、そしてそれに対して公務員として解決のためにどのような提案や提言ができるかについて準備しておく必要がある。この対策としては毎日、新聞に目を通すこと、市町村から発行されている広報等を精読するとともに、それらをスクラップブックとして保存し、要点を繰り返して確認することで動向を知ることができる。試験終了後、「ニュースノート（スクラップブック）を作ったお陰で余裕を持って発言することができました。やはり努力は大事だと思いました」等感想もよく寄せられている。

4 ピアサポートの試み

(1) 上級生から下級生への支援

ピアサポートとは、仲間同士で支え合うことを意味している。前述のように支援者による指導から徐々に仲間同士で支え合うという進め方は、意識を高める上でも知識や技術を身に付けるうえでも有効な方法である。

実習や就職等、体験したことを上級生から下級生に伝えることは、具体的な経験に基づいているだけに分かりやすい。特に採用試験に関しては教養・専門・実技・集団討論・集団面接・作文・個人面接等、多岐にわたっており、しかも市町村によって出題内容が異なっているという事情もあり、その詳細を知ることは下級生にとって貴重な情報である。各種の過去問題集が冊子として市販されているが、その問題集に取り組みながら先輩の経験談を直接聞くことによって、より具体的かつ詳細な情報を得ることができるのでこの機会を期待して待っている者は多い。報告を聞いた後で質問する者も多く、予定時間内に終了しないことも常である。そのため個別に連絡を取り合えるよう協力関係が自然に生まれている。この報告会に参加した者から次のような質問や感想が寄せられている。

後輩の感想

「とても参考になりました。やる気がわいてきました。教養対策としてはいつごろからどんな取り組みをしてきましたか?」、「専門対策でどんな問題集を使いましたか?」、「弾き歌いの実技で特に注意したことは何ですか?」、「保育実技での言葉掛け、服装はどのような配慮をしましたか?」、「できることなら受験から逃げ出したいと思っていましたが先輩の話をお聞きしてがんばろうという気持ちになりました、ありがとうございます」、「面接室への入り方、礼の仕方、バッグを置く位置、着席や起立の仕方、目線の合わせ方等、今まで意識していなかったことを詳しく知ることができて本当に良かったです。これからは自分で練習してみたいです」等、下級生にとっては新鮮な思いばかりである。また、「公立と私立の違いがよく分からなくて悩んでいましたが、先輩の話聞いてとても勉強になりました」、「子どもが可愛いだけでは保育士として失格、かけがえのない命を預かっている責任の重さ、そして本当にやりがいのある仕事だということがよく分かりました」等の感想が多数寄せられている。

先輩の感想

「かつて先輩から就職に関するいろいろな話を聞いて勇気付けられたと同時に、その時は不安な気持ちにもなりました。それは私にはそんな力はないという諦めでした。でも内定通知をいただいて私の体験を後輩にお伝えできるととても誇りに思います。皆さん頑張っというエールとともに、今更ながら先輩に感謝したいです」「後輩たちに体験を伝えることができるのは本当に嬉しいです。かつて先輩の話聞いていたとき、どの先輩もとても輝いて見えました。いつかは私もあのようにという思いを持っていました。それが実を結んだのだと思います。先輩から後輩へ、このつながりがこの大学の魅力だと実感しています」「受験準備は本当に大変、でも近道はない。苦しい日々だったけど、合格通知を手にしたときの喜びは例えようもないほど嬉しいものです。この感動をぜひ後輩にも味わってもらいたいです」等の激励が多い。

学生が学生を支えるというピアサポートは他の大学においても取り組まれている⁽¹⁾。とりわけ実習や就職に関しては有効とされている。しかし、同学年はもとより複数学年の者に対して自主的にサポートする事例は少ないように思われる。長い間にわたって取り組んできた採用試験対策のためのピアサポートの成果と受け止めている。

(2) 卒業生から在學生への支援

毎年、現場で働いている卒業生と在學生との交流会を開いている。卒業生の多くは保育職に従事している者が多いが行政職や民間企業に勤務している者もあり、職種や職域は多様である。

現職で働いている卒業生を招請することは勤務の都合上、週末に限られている。この交流会は毎年、実施しているが当初は卒業生の参加が1～2名程度にすぎず、やや盛り上がり欠ける状態であった。しかし、回を重ねるうちに積極的な参加者が増加し、平成25年度は10名の参加者があった。すべての卒業生が「後輩たちに会えるのが楽しいから」、「久しぶりに母校を訪ねることが嬉しいから」、「先生方にお会いできるから」等、母校への好意的な思いばかりである。児童福祉施設の保育士として勤務している参加者の一人は、「昨夜から夜勤で先ほどまで仕事をしていました。でも、どうしても先生や後輩の皆さんたちに会いたくて来ました。一睡もしていないで少し眠いです」と話していた。スピーチの時間はごく限られているが仕事や職場の現状を分かりやすく説明するので在學生も熱心に聞き入っている。在學生の参加は自由であるが年々増加しており、今年度は159名（全体の約30%）が参加した。現場の具体的な様子を身近な卒業生から聞くことができるため、この交流会は熱気に包まれている。卒業生のスピーチ内容は必ずしも系統的でまとまりがあるとはいえないが、それだけに在學生には新鮮味を感じるようである（「ピアサポートのアンケート」参照）。その要旨は次のような内容である。

- ・就職当初、子どもから可愛い声で「せんせい」と呼ばれて、一瞬、誰を呼んでいるのかと戸惑いました。素直に「はい」と返事ができない自分がいたことを恥ずかしく思いました。どんなに頼りなくても、信頼が足りなくても子どもから見たら先生なのです。子どもだけではなく保護者から見ても先生なのです。学生と社会人の違い、それは気持ちの切り替えをきっぱりとしておくことです。これから社会へ出て行く皆さん、園の玄関を越えたら先生になりきってください。（就職1年目・公立保育園勤務）
- ・学生時代、もっと真面目に真剣に勉強しておけば良かった、私の正直な反省です。今、23人の子どもたちを担当していますが、登園から降園まで実にいろいろなことが目まぐるしく過

ぎていきます。時間の経過がとても早く感じられます。上手く話せないのですが、その場その場で、しかも一人ひとりに対して言葉も動作も態度もすべて常にベストな対応が必要なのです。その正解は誰も教えてくれないのです。自分で即断即決するしかないのです。もちろん別の機会に園長先生や先輩の先生方から指導を仰ぐことはできますが、その場では自分で判断するしかないのです。

ちょっとした一言で子どもは勇気を持ったり失望したりすることもあります。保育士は子どもの鏡という話を学生時代に教わりましたが実践が伴わないのが今の私です。鏡とて、モデルとして自信が持てるようになりたいです。私の反省を含めて日ごろの学習の大切さ、子どもの命を預かるという責任の重さがあることを伝えておきます。一方でこんなにやりがいのある仕事はないと思っています。何より無邪気な笑顔で抱きついてくれる子どもたちに癒されます。保育士になって本当に良かった、これが私の実感です。皆さんもぜひ夢を叶えてください。(就職2年目・公立保育園勤務)

- ・クリスマス会で「あわてんぼうのサンタクロース」を伴奏しました。途中で間違っ て手が止ま っ てしまいました。でも子どもたちは最後まで元気よく歌ってくれました。子どもたちに大変申し訳ないという気持ちでいっぱいでした。普段の保育では、「せんせい、間違えた、ヘタッピー」なんてよく言われるんですけど、本番終了後にピアノ伴奏のことには何も触れない子どもたちの気持ちを本当に嬉しく思いました。子どもたちの心は私が思っている以上に成長していることを教えられました。「せんせい、がんばってね!」という無言の励まし のようにも思えました。ピアノはどれだけ練習しても練習しすぎということはありません。ピアノ伴奏は子どもたちが楽しく歌をうたうために保育士の大事な役割です。練習を十分にしておくことが重要です。苦手な人ほど練習を怠りますが、それは逆です。苦手な人ほど練習が必要なのです。これは私自身の反省です。(就職1年目・公立保育園勤務)
- ・ある日、保護者の方から「先生、ちょっとご相談したいことが・・・3歳なんですけど他のお子さんに比べて少し遅れているのではないかと心配しているんです」という申し出がありました。学生時代に障害児保育や発達心理について学んだのですが実際 の場では的確にお答えできませんでした。他にも自宅でのテレビやゲームの問題、友だちとのけんかの問題、食事や排泄の問題等、保護者からの子育て相談はいろいろあるのですが、子育て支援も保育士の重要な仕事です。今、それを肌で感じています。保護者の方からの問い合わせや相談などは突然なことが多いのです。お迎えの際、先生、ちょっとご相談が・・・といった具合です。答えはその場で必要なのです。どうしてもお答えできないときは、園長や先輩の指導を得てからお答えしていますが、基本的にはその場でお伝えする方が望ましいのです。それが信頼につながるのです。保育士として力不足の自分が情けなくて、一人で泣くこともあります。この種の相談は日常的に寄せられるので、やはり基礎・基本をしっかり身に付けておくこと、保護者の思いに寄り添って対応すること、信頼関係を作るためには本当に大切なことなんです。時間ができたら勉強ではなく、今すぐ勉強することをお勧めしておきます。いろいろな保育関連の講演会や研修会、そして現職の先生方のお話をうかがうのも大切です。私はそのような思いから休日にはできるだけ出かけるよう心がけています。リフレッシュにもなります。これは私自身の反省でありお勧めしているわけではありません。参考にしていただくだけで結構です。(就職2年目・私立幼稚園勤務)

ピアサポートのアンケート

項目	4年生(86名)	1～3年生(159名)
とても良かった	84	152
特に感想はない	2	5

アンケート実施日・平成26年1月25日

5 今後の課題

国家公務員、地方公務員を問わず、すべての公務員は国民・地域住民に対してサービスの向上を図ることが最重要課題として位置づけられている。このため担当領域、部署ごとに研修が進められており、実際に合理化や効率化が進められる中でサービスの向上も具体化されている。それを可能にするのは個々の職員の課題意識と問題解決能力である。新規採用に際しても従来の筆記試験重視から人物重視へとシフトされてきているのは、このような背景が考えられる。

大学においても就職支援者は、公務員への就職希望者に対して何が問われ、どのような人材が求められているかを十分に把握しておかなければ適切な支援をすることはできない。本稿においては保育職を中心に質の向上をいかに確保するかについて実践に基づいて検討を試みた。現代の学生の特徴の一つとして学習時間の不足、とりわけ読書時間の不足が指摘されている⁽²⁾。読書の大切さを伝えると同時に読書に代わる有効な指導法を模索することも支援者の課題といえる。その意味においてピアサポートの試みは今後、詳細な検証を必要とするものの、現段階では一定の成果が認められる。経済状況が改善されつつあるとはいえ、全体として大卒者の就職率が伸び悩んでいる⁽³⁾中で、本学の保育職への就職率は毎年100%近い数値（平成25年度は100%）を残しており、とりわけ公務員志望者の73%が合格（平成25年度）していることはピアサポートによる成果の表れと思われる。しかし、これに満足することなく、更なる創意と工夫、そして創造的な実践力の育成が必要であることは言うまでもない。

大学における就職支援は、国公立・私学を問わず各大学において特徴のある取り組みが進められている⁽⁴⁾。とりわけ私立大学にあっては就職率の結果は学生募集にも多大な影響を及ぼすため、全学的な取り組みとして各種の工夫や改善が進められている⁽⁴⁾。

高校生を招いて大学の学びや施設等を開放するオープンキャンパスに毎年立ち会っているが、その中で高校生本人及び保護者から尋ねられる内容は就職状況に関するものが最も多い。大学における学びや取得できる資格のことよりも就職状況やその具体的な内容が話題になることもしばしばである。入学前から卒業後の進路に対する関心の深さを物語っている。

大学における就職支援には大別して2つの考え方がある⁽⁵⁾。その一つは、大学が就職予備校化しては社会で求められている人材は育たない、発想力や創造力が豊かな人材育成こそ必要なのであるという考え方である。他の一つは、社会が求める人材育成こそ大学の役割であり、カリキュラムの内容も固定化するのではなく、現実を直視して柔軟に見直していく必要があるという考え方である。

換言すれば、どのような職域にも適応できるような基礎・基本を重視した教育か、領域・職種に相応しい専門性の習得を重視した教育か、という違いである。いずれも重要であり、その判断は各大学に委ねられるべきであろう。ただし、18歳人口の減少により、現に大学は淘汰されつつある。この流れは今後、加速していくものと思われる。中規模以下の大学は、生き残りをかけた戦略の一つとして就職率の結果を避けて通ることはできない。大学が高校生から選ばれる時代はすでに到来しているといえる。大学や学部・学科を選ばなければ志望者全員が入学

できる大学全入時代なのである。そこには大学が掲げる教育目標や具体化の実際とその結果が問われている。

なお、本学では、「子どもの成長にかかわる基礎的・専門的知識を広く学び、乳幼児の保育と地域の子育て環境づくりをサポートできる、高度な指導力を備えた保育士や幼稚園教諭の育成を目的とする」（平成26年度名古屋女子大学案内）としている。

保育職への就職支援について、現状と課題に触れながらピアサポートの試みを取り上げた。まだ道半ばであり成果の検証は今後のこれまでの支援方法が今後も有効とはいえない。時代の進歩、社会の変化、そして学生の意識に応じて柔軟に且つ大胆に見直しながら新たな支援策を模索していきたい。一人ひとりの学生の夢や希望を現実に、この支援こそ大学における支援者の役割である。

大学は各領域においてそれぞれ専門性の高い教員の集団である。専門領域が異なっているだけに就職支援においては個々に支援の方法や内容について見解が異なることも珍しくない。多様な見解があることはむしろ当然であり、新しい価値を生み出す源でもある。しかし、就職支援に際して各教員によって基本的な視点が異なっているのは混乱や動揺を来すものも考えられる。就職支援に携わる教員の共通理解と事務担当者との綿密な連携、そして全教職員による情報共有が不可欠である。

支援に際して、個々の学生の特徴や志望動機等を把握することは重要であるが、とりわけ顔と名前の一致が特に重要である。名前を覚えることにより親近感や信頼感が深まるのである。長い間にわたって多くの学生と接してきた教訓である。

- (1) 例えば、『全国保育士養成協議会第48回研究大会研究発表論文集』、全国保育士養成協議会、平成21年。
- (2) 2012年7月31日、朝日新聞。記事によれば、大学生の1週間あたりの学習時間は0時間が9.7%、1～5時間未満が57.1%とされている。
- (3) 2014年1月21日、朝日新聞。記事によれば2013年12月1日現在の大学卒業就職内定率は76.6%とされている。
- (4) 例えば、『全国保育士養成協議会第50回大会研究論文発表集』、全国保育士養成協議会、平成25年。
- (5) 2012年12月8日、朝日新聞。